



いつも増して暑い湿地に、いつも増して訪問客が多い夏でした。山陽新聞、NHK(写真)、山陽放送・・・取材の皆さんに共通しているのは帽子をかぶらないこと。中にはスーツ姿に革靴の方もいました。よい子のみなさんは、あのおじさん、お兄さんたちの真似をしてはダメですよ！その暑い夏も遠ざかり、ヨシは既に枯れ色です。そんな11月6日(土)に、西大寺公民館で「永江川河口湿地報告会」を開きました。

湿地周辺地形の移り変わりや歴史(辻野喬雄さん)、ヨシ原の中の様子(森)、湿地にやってくる鳥の話(越山洋三さん)、湿地で観察できるハゼやカニの種類と見分け方(江木寿男さん)、ヨシ原のゴミの話(森)・・・3時間にわたる報告でした。参加した30名ほどのみなさんは、とても熱心に聴いてくださいました。ありがとうございました。今年の「湿地のシーズン」は、ほぼ終わりました。湿地のみんながじっとしている間に、ヨシ原のゴミの片付け方を考えようと思います。

岡山市東区でも見える水平線からの日の出

安原 洋二

見渡す限りの海の彼方から昇る太陽、そんな景色を一度実際にみてみたいと思った。どこに行けば見えるのだろうか。東の方角に島も何もなく、海しか見えない地点はどこだろう。高知県の室戸岬まで行けば、東の方角は太平洋だからいいかもしれないが遠い。はるばる行ってもその日が曇りだったら・・・こんなことを考えながら、近くの海岸線をドライブしてみた。岡山市の宝伝海水浴場、砂浜に立つと、東の方角は遠くまで海しか見えない。やった、ここだ！しかしその方角には淡路島が横たわっているはずだが？。地図で調べるとそのとおりだ。しかし淡路島は見えない。水平線が見える。水平線までの距離はどのくらいだろうと思い調べてみると、浜辺に立った人が見る水平線までの距離は約4.5キロメートルということだ。堤防の上や小高いところに立つと見える水平線はもっと遠ざかる。東の方角から日が昇る9月初旬、日



実線が宝伝海水浴場(点線の先)から東の方向

の出前に出かける。写真のような見事な日の出が見えた。撮影は2010年9月10日午前5時42分～45分



編集 / 『西大寺の自然だより』編集委員会
発行 / 岡山市立西大寺公民館
〒704-8115 岡山市東区向州 1-1
TEL942-6252 FAX 942-0774
<http://kouminkan.city.okayama.jp/saidaiji/>
Mail:saidaijikouminkan@city.okayama.jp
「自然だより」カラー版をHPでご覧下さい。

投稿のお願い

この「自然だより」に地域のみなさまの原稿を募集しています。ふと見つけた西大寺の自然や昔の思い出など、西大寺の自然に関するものであれば何でも結構です。お待ちしております。なお、自然だよりが必要な方は、ご面倒ですが、公民館までおいで下さい。

みんなで見つけた

No22(H22.12.1)

西大寺の自然だより

いっぱい収穫したよ！

5月に雄神小学校4年生のお兄さん、お姉さんと畑にさつま芋を植え、成長を楽しみに一緒に水やりや草取りなどのお世話をしたり、様子を観察したりしてきました。そしてまちにまった収穫の日。ペアのお兄さん、お姉さんとお目当てのサツマイモを力を合わせて土の中から引っ張りました。「わー大きい」「お芋と綱引きだ～」「こんなにたくさんでできた～」などなどあちらこちらで大歓声です。どの顔も土にまみれうれしそでした。とれたお芋は焼き芋をはじめ、いろいろな料理をしてお兄さん達や地域の方と食べ、これまた大満足でした。



くいただくことへの感謝の気持ちなどを育てています。

岡山市立雄神幼稚園



雄神幼稚園では幼児期からいろいろな人とのかかわりの中で食育の大切さが学べるよう、生長や実りを見たり、世話をしたり、ふれたりすると共に、何でも食べることの大切さやおいしく

命の継承

伊月 義治

西大寺射越の吉井川の河川敷から上流方面を見ると、大きな山が見えます。

この山は、標高508mの岡山南部では最も高い「熊山」という山です。もとは、「隅山」と書かれ、くにの隅っこにある山として名付けられました。いつのときからか「熊」の字があてられるようになりました。ですから熊がいたというわけではありません。この山の中にはたくさんの生き物が生活して



います。登山道はいくつもあり、それぞれの登山道で、四季折々の自然の様子を観ることができます。

夏の終わりには、生を受け継ぐ「命の継承」の姿を観察できます。静かにゆっくり山の中を歩いているとアゲハチョウとアブラゼミの交尾の姿を見ることができました。新しい命がまたこの山で生まれてくるのですね。



ダルマガエル日誌 夏編

カエルと猛暑とウキクサと



我輩はダルマガエルである。豊の「ダルマガエル生息地」に住んでいる。

猛暑である。さすがに今年の夏は暑かった。我々ダルマガエルは水辺から離れないカエルなので暑ければすぐに水に浸かるのだが、その肝心の生息地内にある池が「いつから温泉になったの？」というくらい暖かくなっていた。我輩たちは田んぼのような浅い水辺に昔から生活しているカエルなので、高い水温には「ある程度」は慣れている。...じゃが、これだけ暑いとどうしてもバテてしまう。ここまで暑いと、ついグチの1つでも出るってものだ。

...で、そのグチじゃが、この数年で我輩たちの生息地にも「アカウキクサ」なるものが増えてきた。この暑い天気にもかかわらず、生息地の北側と西側にある水辺や池はアカウキクサの赤色一色じゃ。ただ、アカウキクサはアカウキクサでも、池で増えている種類はなんでも外国から来た種らしい。昔のことをよく知っているジイさまカエルに聞くと、日本にいたアカウキクサってのは暑さに弱いんだそう。それから察するに、池ではびこっている連中はほぼ「外国産」で間違いのないだろう。

こいつらが増えると、あたり一面びっしりと

水面が覆い尽くされてしまう。我輩たちはある程度日に当たる（開けた）場所を選んで卵を産むが、こいつらがはびこったおかげで産卵場所がどんどん狭くなってきており、とっても困っている。誰か、何とかしてくれんだろうか...。また、よく池を見ると、ジャンボタニシ（正確には「スクミリンゴガイ」と言うらしい）のピンク色をした卵も植物の茎にチラホラと見えるようになった。まったく、「赤色」やら「ピンク色」やら、いつから我輩たちのすみかは、そんなケバケバしい色彩をした場所になったんじゃないだろうか。近所に住む他のカエルからの話によると、なんでも最近はどこでもジャンボタニシが増えてきており、昔からいたタニシたちはすみっこに追いやられて、たいそう肩身の狭い思いをしているそう。そのうち、我輩たちのすみかも「水面はアカウキクサの赤色一色、水から上はジャンボタニシのピンク色一色」という妙な場所になってしまうだろうか？

さてと。グチはこれくらいにするか。それにしても、やっと過ごしやす季節になった。子ガエルたちもすっかり大きく育った。我輩たちは寒くなると泥の中やワラの下で寝る（越冬する）ワケだが、それまではこの快適な季節を大いに楽しむことにしよう。

（豊ダルマガエルを見守る会 田中道明）

冬の我が家の庭

大森 正之

空をスイースイーと気持ちよさそうに飛んでいた秋アカネを見かけなくなると季節も冬、赤い花を付けた山茶花が咲き、去年の夏ごろに白い花を付け小さくて青かった金柑の実が大きくなり少しづつオレンジ色に色づいてきています。

亡父が好きだった椿も薄ピンク色の花を咲かせ水仙、パンジーなども花をつけ沢山なっていた南天の赤い実は鳥たちの餌になっていきます。

植木鉢やブロッコを動かして見るとその下にキラキラ光る透明の綺麗な粒々を数個見つけました。この綺麗な粒々からは想像もできませんがあのヌメヌメして気持ち悪いナメクジの卵です。

冷えて氷点下になると金魚鉢に薄氷がはり水面に浮かんでいた山茶花の



花が咲き鳥や虫たちが遊びに来てくれるのが楽しみです。

準備をしています。

春の訪れを告げるようにユスラの木やチューリップからも若芽が出て庭の花や木は次の季節への準備をしています。

霜柱が立つ時もあり幼かった頃サクツサクツと霜柱を踏み荒らして友達と遊んだ遠い昔を思い出させてくれます。

赤い花びらも凍りつき、水中で金魚、メダカが静かに泳ぎ、めつたに降らない雪が舞うと山茶花の赤い花弁に白い雪が積もりフコシラズが薄化粧した雪の中から黄色い花をのぞかせ、赤、黄、白色と対比的な目で目を楽しませてくれます。

霜柱が立つ時もあり幼かった頃サクツサクツと霜柱を踏み荒らして友達と遊んだ遠い昔を思い出させてくれます。

赤い花びらも凍りつき、水中で金魚、メダカが静かに泳ぎ、めつたに降らない雪が舞うと山茶花の赤い花弁に白い雪が積もりフコシラズが薄化粧した雪の中から黄色い花をのぞかせ、赤、黄、白色と対比的な目で目を楽しませてくれます。

赤い花びらも凍りつき、水中で金魚、メダカが静かに泳ぎ、めつたに降らない雪が舞うと山茶花の赤い花弁に白い雪が積もりフコシラズが薄化粧した雪の中から黄色い花をのぞかせ、赤、黄、白色と対比的な目で目を楽しませてくれます。

赤い花びらも凍りつき、水中で金魚、メダカが静かに泳ぎ、めつたに降らない雪が舞うと山茶花の赤い花弁に白い雪が積もりフコシラズが薄化粧した雪の中から黄色い花をのぞかせ、赤、黄、白色と対比的な目で目を楽しませてくれます。

赤い花びらも凍りつき、水中で金魚、メダカが静かに泳ぎ、めつたに降らない雪が舞うと山茶花の赤い花弁に白い雪が積もりフコシラズが薄化粧した雪の中から黄色い花をのぞかせ、赤、黄、白色と対比的な目で目を楽しませてくれます。

タンチョウについて(1)

西大寺自然を愛する会

阿部 琢志

今回は、平成21年12月28日に岡山市の鳥に制定された鶴の「タンチョウ」について、お話をしてみよう。タンチョウの名前は漢字では丹頂と書き、「丹」は赤（朱色）、「頂」はてっぺんという意味があります。また赤い帽子をかぶったという意味もあります。また「タンチョウ」だが「・・・ヅル」とつかないのは、日本国内の統一名称が標準和名だからだそうです。

中国語ではタンチョウのことを丹頂鶴と書くそうです。そもそも「タンチョウ」は東アジアにすんでいるツルで、中国とロシアにまたがるアムール川流域と北海道に生息しております。「タンチョウ」は乱獲と湿原の減少で、またたく間に少なくなり、一時は絶滅の危機

気持ち悪くないのかなあ

ある公民館の広報に「ランチョウの稚魚をおわけします。」の記事が出ていました。かつて「ネオンテトラ」など熱帯魚を飼っていたこともありましたが、いつのまにか死に絶えて水槽もお蔵入りしてしまいました。その後犬と猫を飼い、記憶の彼方に飛んでいきましたが、この記事を読み、金魚なら育てられるかなと、また飼いたくなりまして。ゼロからの飼育で今度こそ立派に育ててやろうと楽しみ飼いで始めたのですが、1匹2匹と死んでいき、どうする術もなく、生きる



と励まし続け、4ヶ月経った今は3匹が元気に泳いでいます。この歳で初めて金魚を飼って、金魚の糞の意味がわかりました。常に付いて回る様子を「金魚の糞」と使っていますが、本当に糞をつけたまま、恥ずかしげもなく泳いでいます。気持ち悪くないのかなあ、何で切れないのかなあ、何でこんなに長い糞が出るのだろう、腸が長いのかなあ、食べ物の影響かなあなど思いますが、またりっぱなのをばさんどると、笑いながら眺めています。人間なら身長以上に長いのは絶対に無理と思いがら。

にさらされました。その後釧路湿原に10数羽飛来タンチョウの給餌（エサをあたえること）に成功したことで徐々に増加して、北海道の釧路地方を中心に留鳥（常に同じ場所に一年中いること）として約千羽までになつて生息しています。今では1952年に特別天然記念物に指定されています。

タンチョウは、江戸時代まで日本各地に見られ、岡山県にも飛来した記録が残っているそうです。皆さんもよくご存じの日本三大名園の一つ岡山の後樂園でもおよそ三百年前から10羽ほど飼われていたそうです。岡山県では、将来タンチョウたちを自然環境の中で飼育することが可能かどうかを調査のため、岡山自然保護センターで飼育されています。自然保護センターでは野外飼育



に向けての取り組みが総社市などで行われています。今年、総社市で飼育されている「つがい」から可愛い2羽のヒナが生まれましましたね。今回は、このタンチョウが岡山でなぜ飼育されているのかを、お伝えしたいと思います。